



「互いに結び合わされ」

I コリント二二章12〜31節

牧師 安藤 脩

新会堂が完成し、二〇〇五年11月13日より用い始めました。二〇〇六年2月26日に献堂式を行い、ちょうど七年になります。主の豊かな恵みにより、会堂建築の借入金も前倒しで完済できました。真に感謝です。

しかしここで、ホットして胡坐をかいてしまつてはなりません。復活の主が天に帰る前「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授けなさい。」(マタイ二八：19)と言われた使命を、強く心に覚えたいと思います。この四丁目に新たに土地を得、移転新築したのは、自動車でも来易く、更に多くの人々が教会に来て、福音の恵みに預かれるようにとの目的だったのですから。主もそれを「善し」として、色々な奇跡的出来事をもって祝福くださったのですか

ら。今こそ、全ての民に福音を伝える、伝道に力を注ぐ時です。

会堂は建ちました。ここが命の通った主イエス・キリストの体として栄光を顕すのは、今からの私たちにかかっていきます。伝道も「がんばれ、がんばれ！」では重荷になります。大事なことはイエス・キリストによって与えられた命が、活き活きと息づいていることでもあります。

このようなことを思い巡らしていた時示されたのが「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」(I コリント12：27)という今年の標語聖句です。

神様は決して無駄なもの御造りになりません。まして、キリストの体といわれる教会を築いている一人一人は、必要あって、主が教会に集められたかけがえない存在です。

それぞれの生まれ育った環境、性格、賜物、能力は違いますが、「皆一つの体

2013年春号
 日本キリスト教団
 横浜岡村教会
 〒235-0021
 横浜市磯子区
 岡村 4-25-39
 TEL.045(751)3917
 牧師
 安藤 脩

となるために洗礼を受け、皆一つの霊を飲ませてもらったのです。」(：13)

そして、教会という体の頭はキリストです。ですから違いはあっても、キリストにあつて思いは一つです。皆がキリストの思いを自分の思いとして生きるなら、色々な違いがあることは、良いことです。

教会はこの世の同好会サークルではありません。この世は同じ趣味、同じレベルの者達が集まります。でも教会は老若男女、種々のレベルの人々が集まります。身体に手、足、口、耳、鼻、全く違った性質と働きがあるように、色々な人達の集まりです。それは互いに欠けを補い合うためです。

完全な人などいません。皆が欠け、弱さを持っています。でも教会について「体の中でほかよりも弱く見える部分が、かえつて必要なのです。：神は見劣りのする部分をいっそう引き立たせて、体を組み立てられました。：一つの部分が苦しみれば、全ての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、全ての部分が共に喜ぶのです。」(：22〜26)と言っています。

教会は互いに欠けを補い合いつつ、自分の賜物をもって奉仕し、主キリストの福音を伝えるところです。

証し

川村岳文兄へインタビュー

川村 岳文兄は、12月23日のクリスマス礼拝で、洗礼を受けられました。教会員でいらっしやるお母さんも加わってインタビューさせて頂きました。

◎岳文さん、受洗おめでとうございます。

ありがとうございます。

◎教会のメンバーになりましたが、どうですか？

うれしいです。これから一緒にのりしていきます。礼拝も来ます。

◎イエス様と一緒に歩いていきますようにね。

はい。

◎今、毎日教会の作業所に来ていますね。

はい。いっしょうけんめい仕事をしています。これからも頑張ります。

◎お母さんに加わってもらいます。おめでとうございます。

ありがとうございます。岳文がこの様にたくさんの人たちの祝福を受けて受

洗できました事、感謝です。

岳文は今34歳ですが、中学3年の時に友達と釣りに行き、誤って海に落ちてしまい、脳に障害を負ってしまいました。今は、教会の作業所「ろぼの店」で、楽しく仕事が出来ているので、本当に感謝です。

◎今まで大変でしたね。

でもこうして、私も信仰を復活させてもらい、息子も信仰が持てて、本当に嬉しいです。教会員の内出さんが、岳文の為にこの作業所を紹介してくれました。内出さんには本当に感謝しています。

岳文さんの受洗に思う

内出 キミ子

「明日、何が起こるか心配してはならない。今、あなたの信じる神は、又、明日も永遠にかえりみて下さる。あなたを苦難から守りたもうか、さもなければ、これを忍ぶ力を与えてくださる。すべての不安の想いと想像を捨てなさい。」

私が、川村姉に会ったのは、同じ会社に勤めていたからです。そのような時、

彼女の大切な一人息子さんが、事故にあ

ったのです。長い間、彼女は、息子さんに寄り添い、悲しみと苦しみの中を通過していました。今から7年前、横浜岡村教会は会堂が出来あがりしました。ほどなく、坂本兄が教会内で作業所を立ち上げる事になったのです。私は、さっそく川村姉にその事を告げ、岳文さんは、教会の作業所「横浜ろぼの店」で、受け入れてもらう事になりました。家から近いところでもあり、親子で共に集う事が出来るのでとても安心で、共に感謝しました。

その息子さんが、この度、教会にて洗礼を受けられ、本当に嬉しく思いました。これからも一緒に主を礼拝して行きたいと思えます。

「見よ、私はすべて定まった日の間、あなたと共に居る」との御言葉を私も共に頂き、平安を得て感謝な日々を過ごしています。



証し

歩み



池田 昭夫

今から67年前は、私の青春時代でした。又、この時は、大東亜戦争の最中で、この横浜が米軍機の大空襲を受け、焼け野原にされました。市民は犠牲になり、焼け出されたのです。

5月29日、私は、ジフテリアの名で病院に入院していました。今は、脳血管医療センターと呼ばれていますが、当時は万治病院と言ひ、伝染病患者の人々を収容する病院でした。だから横浜大空襲は知らなかつたのです。間もなく終戦となり、ようやく癒えて退院しましたが、何もなく、食べるものも無く困りました。父がクリスチャンで、教会へ行く事になったのです。そこで「放蕩息子」の譬を聞きました。「この地方にひどい飢饉があつたのでた食べる事に窮してしまつた。ある住民の所に行つて身を寄せた所、彼を畑にやつて豚飼いをさせた。彼は、豚が食べているイナゴ豆で空腹を満たしたいと思つたが、誰も何もくれる人はなかつた。」(ルカ十五章14〜16)

何もなく、空腹だつた自分のみじめさと、悲しさと空虚さもあつて、聖書の言葉が心に染み渡り、キリストに心を留めるようになったのです。それまでは「神などいるもんか!」と、自分勝手な思いや考えで生きていたが、「これではいけない」と思い、信仰心が沸いてきたのです。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。」(1テサロニケ五章16〜18)

断食祈祷聖会に参加して

藤山 クニエ

大雪の降つた次の日、JRの動いていないのを確かめ、午後の聖会に出席しました。川端光生牧師の「イスラエル」を聞きました。「イスラエルは日本のリバイバルの鍵を握っている。なぜイスラエルの為に祈るのか」と、語られました。「日本の礼拝のメッセージは、言葉でいかに正しいかを説明している。牧師は、説き明かしを聞いた人が理解してくれたらと願っているが、必ずしも伝わっていない現実がある。ユダヤ人は言う『キリスト

教は言葉の宗教で、行いが伴っていない。信仰と行いは一つ。アブラハムは信じた事を行った。』イスラエルは16億のイスラムに向かい合つている。サタンはユダヤ人を亡き者にしようとして働いている。」との事。私は、だからイスラエルの為にもっともっと祈らないといけないと思ひました。

「一部のイスラエル人がかたくなになつたのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。」ローマ十一章25〜26



3教会CS交わり会
鍋パーティー
於:横浜菊名教会



二〇一三年 標語聖句

「あなた方は、キリストの体であり
また、一人一人はその部分なのです。」



「新約聖書」コリント12章27節

新年に当たり、新しい気持ちで教会を支える各部の働きを、役員の方々に書いていただきました。

○総務部

今給黎 美代子

総務部は、教会全体の働きを支える、礎石としての、役割を負っています。郵便物、書類の管理、整頓、事務用品の補充、聖日の昼食愛餐会や、各教会行事の愛餐会の食事の準備や、後片付けを会員の協力のもとに行っています。又、有志による聖日の送迎の働き、教会堂内外の清掃、営繕係による管理等、多岐に渡って、ご奉仕があります。年4回発行される「岡村の泉」は、横浜岡村教会の顔として、伝道に用いられています。キリストの体である教会は、一人一人の能力と賜物を必要としています。御国の働きのために私たちを用いて頂き、宣教の業が達成されて、神様のご栄光が顕わされます様に願っています。

○営繕（総務部）

井上 義勝

教会の行事活動には余り関係のない営繕ですが、大事な役割があります。それは教会敷地内の建物の外部内部、エレベーター、駐車場、什器備品等の定期点検を実施することです。実施内容は会員のご協力を得て、年2回点検管理表で五十一項目をチェックし、可否により修理修繕の措置を取っています。これからもメンテナンスを怠らず、キリストの体なる教会を守って行きたいと思えます。

○教育部

早園 貞子

教育部は、信徒講座を6月に行い、礼拝後4回に亘って7人の方に信仰生活の証しをして頂き、好評でした。信徒研究会（懇談会）を年2回開き、2月10日（日）午後、「岡村教会のこれからパートIVを開きました。出席者26名が、5つのグループに別れ、話し合いました。今まで話し合った、伝道、イブニングチャペル、祈禱会などの他に、洗足礼拝、アシユラム、創立記念礼拝、特伝、バザー等の持ち方について話し合いました。教会員も高齢化して来て、行事が多いのではと考へ提案したのですが、どれも伝道の為、大事な行事なので続けて欲しいとの意見

が多く、感謝な懇談会でした。

○ジュニア・チャーチ（教育部） 藤山 クニ子

「わたしはよみがえりです。命です。」

私を信じる者は、死んでも生きるのです。」

ヨハネ十一章25節

毎週教会に来られるお友達がいるという事は、何と感謝な事でしょうか。主が一人一人を送って下さるのです。イエス様の言われた御言葉を心から信じる者となる。この一点に尽きると思えます。幼少期に、心にイエス様を受け入れた多くの者は、主の働きをすと言われています。小学生のうちに心の中心にイエス様を迎えてもらいたいと思えます。

○伝道部

井上 義勝

外に向って福音を発信する伝道部は、二〇一二年度の活動計画に基づいて、伝道礼拝、特別伝道礼拝の開催。こころの友伝道対象者のフォロー、新来会者の対応。これらのことを牧師と伝道奉仕者が協力して行なっています。しかし、一連の行事開催、フォローや対応等は、伝道部だけで成しえるものではありません。教会員一人一人のご奉仕の賜物によって、これまでの活動計画は達成されてきました。

た。

二〇一三年の標語聖句は「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」と与えられております。この御言葉を恵みとして、喜んで伝道奉仕活動に励んで行きたいと思えます。

○礼拝部

関原 紀子

今年度の礼拝部のスローガンに、「週のはじめ、まず礼拝から」が、あげられています。礼拝を守ることは、クリスチャンにとって、生涯大切にすべきことです。礼拝を滞りなく進めるために、携わるひとりひとりの奉仕が大切です。教会員の方々の目を通し、気がついた事、足りないなど思われる事等、聞かせていただきたく思います。そしてよく話し合い、検討しより良い礼拝を、おささげしたく思います。今年の標語聖句、「あなたがたはキリストの体であり、また一人一人はその部分です。」1コリント12:27 教会生活を守るのに、良きみことばが与えられたことに、感謝しています。

○財務部

間宮 富子

財務部は、長の井上兄、今給黎姉との3名で奉仕しています。いつも心に思う

事は、一人一人の主に捧げられた尊い献金を扱い、重要で大変な部分を任せられているという事です。会計の奉仕を受けた当初、教会の運営がすべて尊い献金で成り立っている事に大変驚きました。全く経験もなく安易に引き受け、その重圧感と緊張感、今もあります。先に会計担当の、今は亡き谷口姉より、一年近く二人三脚で、付きっきりで指導していただいた事が思い出されます。今後とも3人で協力し合い、新しく立てられた予算に沿って、誤りのないよう、一つ一つ心を込めて当たって行きたいと思えます。

○カレブの会

関口 猛

5年前に名称を変更しました。聖書に「彼は主に従い通したからだ」とあり、カレブは40歳の時、カナン地方を偵察し、85歳になっても困難に揺るぎない信仰で立ち向かった。その間、40年以上の長きにわたり信仰を守り通した。我々もカレブにならない信仰生活を歩むことが願いです。現在の活動は、聖書の輪読勉強会と親睦です。メンバーは40代〜80代で構成され、これからは、特に長欠者、新会員への働きかけに注力したいと思っております。

○マリア会

安藤 善枝

マリア会(婦人会)は、毎週木曜日の聖書研究会(雅歌に引き続きイザヤ書)とメンバー発表による学び(今年度は賛美歌作家の信仰)を大切に行っています。又、月1回の例会には、20名ほどのメンバーが集まり、誕生者のお祝いと証し会、祈り会を持っています。又、毎週の食事作りやお掃除や細かな事務の仕事も皆で協力して行っています。新しい方が来やすいプログラムとして「春のランチョン」を企画しています。

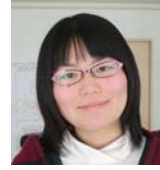
○わかえだ会

平野 耕太郎

わかえだ会のメンバーは、大人の教会員の中でも子ども達と年齢が近く、ジュニアチャーチの子ども達にとつて、とても親しみやすい存在です。JCの礼拝は勿論、夏季キャンプやその他の集会にも一緒に参加しながら、子ども達が信仰を持つ事が出来る様祈り、奉仕してゆきます。また、昨年に引き続き、今年も隔月ながら礼拝の中で特別賛美を定期的に持ち、礼拝を更に恵み豊かなものにしてゆきます。

特別なクリスマス

森田 智美



私は二〇一二年の11月から横浜岡村教会に通うようになりました。幼稚園時代にカトリックのキリスト教教育を受けていた事もあり、プロテスタントの大学に入学してからです。教会に通いたいと思っていたからです。また、幼い頃から、いつか教会でクリスマスを過ごしたいと思っていました。幼稚園には教会が併設されており定期的にそこで礼拝をする事がありましたし、クリスマス会で降誕劇もしましたが、教会でクリスマスを過ごした事はなかったからです。なので、毎年クリスマスの日には、「教会ではどのような事を行っているのだろうか？きつと特別な礼拝なのだろう？」と考えていました。

24日に行われたキャンドル礼拝では、子どもたちによる降誕劇がありました。教会へ通い始めてまだ数回しかたないうちに、私はそこで博士役を担当することになりました。JCの子どもたちとの降誕劇は、幼い頃を思い出してなんだか懐かしい気持ちでいっぱい、練習の時からクリスマスの本番を楽しみにして

ました。また、劇の練習などを通して、子どもたちと接する機会が持てたことは嬉しかったです。24日はキャンドル礼拝の後のキャロリングにも参加しましたが、どちらも、暗闇の中に光るろうそくと、響く賛美がとても綺麗で、教会でクリスマスを祝えた事を本当に感謝しました。

さらに、この他にもクリスマスに関して恵まれた事が多くありました。クリスマスまでの期間、JCの礼拝や大人の礼拝でのメッセージを通して、「イエス様は私たちの罪を負い、救って下さるために生まれてきた」という、クリスマスの本当の意味を知りました。その時に、大学の友人である教会員の平野君を通して、イエス・キリストを救い主と受け入れていたので、その話しは聞いていました。でも、礼拝でのメッセージを聞いて自分の中で実感し、イエス様の誕生は涙が出るほど嬉しかったです。それと同時に、本当に祝福すべき日なのだと思います。丁度、降誕劇で子どもたちと歌った『一番はじめのクリスマス』という曲の歌詞に「預言者が言っていた 救い主が生まれる時をずっとずっと何千年も みんなが待っていた」とありますが、当時の人々はイエス様の誕生に、どんなに喜びで溢れたのだろうと思うと、私も心が温かく

なりました。

また、アドベントの期間は毎週、礼拝の中で特別賛美がありました。私は第二週目に平野君と『世界ではじめのクリスマス』と『イエスがこころに』の2曲を賛美しました。歌は苦手なのでとても緊張しましたが、みなさんに喜んでもらう事が出来たので引き受けて良かったと思います。この事を通して、賛美が好きなだったので、これからは少しずつ、曲を覚えていきたいです。

24日の礼拝当日には、礼拝の前にわかえだ会のクリスマス会が行われました。このクリスマス会は、近年は行っていないと聞きましたが、わかえだ会の石川さん、平野君、そして善枝さんと皆で料理をして準備をするのも楽しかったです。加えて、子どもたちと交わる時間を持てたことや、普段あまり会う事が出来ない教会員の方とも会う事が出来たのは良い機会でした。

このように、クリスマスを教会で過ごせただけでなく、教会での多くの事に参加出来たこのクリスマスは、私にとって恵まれた特別なクリスマスでした。これから、受洗について考えながら、教会の活動にも多く参加したいと思っています。

イブニング・チャペル

毎週日曜日 PM 5時～6時 礼拝
PM 6時～7時 夕食会

天からの恵み

イブニング・チャペル

牧村 真紀子

私は、生活のリズムをとるのが難しく、今まで日曜礼拝の朝、起きれず、教会に來れない毎日が続きました。でも、イブニング・チャペルが始まり、夕方なら元氣なので行く事にしました。行ってみると少人数の集まりでしたが、良い時間を周りと共有することが出来ました。賛美もゴスペルで歌いやすく、私が初めて行った教会もゴスペルだったので、楽しく歌えました。それに夕食を食べながら、安藤先生夫妻とその時集まったメンバーで愛餐の恵みを分かち合えてとても嬉しいです。月の初めには、聖餐のパンとブドウジュースで、イエス様の体と血を与えられ、感謝です。私が教会とつながって行けるのはイブニング・チャペルのおかげです。この様な場を与えてくださっ

た主に感謝です。もつと沢山の求道者がこの場に来て、救われる事を願っています。いつかは、私の家族全員が來れるように願っています。主に榮えあれ！

イブニング・チャペルとの出会い

大塚 八千代

私は、いままで難しい問題を抱えていて苦しんでいました。何年もかかり、本やDVDを買って問題解決を願ってききましたが、解決を得る事が出来ませんでした。今は神様の力に救いを求めています。いままで教会を探していくつかの教会に行きましたが、どこにも行かなくなってしまうしました。

ある日、家の近くにある横浜岡村教会に目が止まりました。案内板を見て、私が行ける日はイブニング・チャペルでした。思い切って行ってみました。その時、皆さんは、私を自然に受け入れて下さいました。私は、来た理由など、自分から話をしていました。他の教会ではなかった事でした。食事会もイエス様が共に食事をされた様な時を思わせられました。次の日からは、仕事でも賛美が口から出て、気分良く仕事が出来ました。仕事時

間に制約される私にとって、やっと神様と共に居られる、よき所を見つけた事が出来、今は喜びで一杯です。今は、神様の力によって、いつも前向きに力強く生きる事が出来、感謝です。神様の愛と、信じる大切さを、これからも学んで行きたいと思えます。



なごやかな夕食会

3～5月行事予定

3月

- 1日 世界祈祷日(聖アンデレ教会)
- 3日 世界祈祷日 JC・一般合同礼拝
- 17日 チャペル・コンサート
- 19日 田崎宅家庭集会
- 20日 三教会統一祈祷課題祈祷会
- 22日 三教会牧師家族会
- 24日 JC スタッフ・役員任職式
- 24日 棕櫚の主日洗足礼拝
- 24日 横浜地区集会(指路教会)
- 25～28日 受難週祈祷会
- 29日 受難日礼拝
- 31日 イースター礼拝、餅つき会

4月

- 16日 田崎宅家庭集会
- 26日 藤山宅家庭祈祷会
- 28日 定期教会総会
- 29日 関東こころの友伝道講習会
(赤羽)

5月

- 5日 責任役員任職式
- 12日 母の日親子礼拝
- 14日 三教会交流委員会(横浜岡村)
- 19日 ペンテコステ礼拝
- 21日 田崎宅家庭集会
- 31日 藤山宅家庭祈祷会
(毎月第1主日 聖餐式、役員会)
(毎月第4主日 各会の定例会)



JCの窓
(ジュニアチャーチ)

「わかえだ会クリスマス」

安藤 善枝

12月24日(月) PM

3:00より、若者のクリスマス会が行われ、16名が参加しました。JCの子供たちも7名参加し、賑やかなクリスマス会となりました。中心メンバーは、午前中から来て、シチュー、おにぎりなど一生懸命作りました。一部は礼拝。二部は食事会とゲームのひと時。いつもは顔を合わせない人達が出会って、交わりが持てる事は嬉しい事ですね。たっぷり作った

食事も、夜のキャンドル・サービスに來た人達にも食べてもらい、丁度よい加減でした。すべてが終わってから片付けも、今年のはスムーズで、その日のうちに片付けられたので感謝でした。今年のクリスマス飾りのテーマは「星」で、各所「星」にこだわったのですが、わかったかな？



集案案内

● 3月17日(日) PM 1:30～3:30
チャペルコンサートへのお誘い
「ホルンとピアノが奏でる
世界の名曲」

宮田四郎*ホルンの調べ
是非おいで下さい!
入場無料



● イースター礼拝

3月31日(日) AM 10:30～
午後、お餅つき
家族でおいで下さい。



編集後記

年の初め、今年も素晴らしい標語聖句を与えられ感謝です。このみ言葉を心に留め、この一年も教会の行事に携わっていききたいと思います。

立春を過ぎても、まだまだ寒い日が続いています。この時期、特に体調には気をつけたいものです。皆さん、うがい、手洗いは忘れずに。
(M・S)